2013年8月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第439号

地方小出版 情報誌

アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体143円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

カレル・チャペック「園芸家の十二ヶ月」を出すにあたって

「山椒は小粒でもぴりりと・・・」あるミニミニ出版社の思い

文・栗栖　茜

チャペック記念碑

兄ヨゼフによる『園芸家の十二ヶ月』挿絵

6年近く前、2007年11月に海山（かいざん）社という小さな出版社を立ち上げた。海山社ってどういう意味ですかとよく聞かれる。そのたびに、「いや、海のものとも山のものともわからないものですからね」と答えることにしている（実は、もう少し期するところがあってつけた名前なのだが・・・）。それもそのはず、なにしろ、実質、社員1名、出版する本はすべてその社員である私の著した、あるいは訳したものだけだからである。

そんな出版社をなぜ立ち上げたか？

それは、まず、自分が長年携わっていた外科医としての「卒業論文」、つまり、がんに対して患者や家族、医療従事者がどのように向き合っていくべきかを自分なりにまとめたもの（結局は「**がんで死ぬのも悪くはないかも**」というタイトルで海山社から出版したのだが）をできるだけ多くの人に息長く読んでもらいたいという願いからだった。

というのも、それまでに何度かいくつかの出版社から自分の訳書を出版したものの、売れ行きが悪いとたちまちにして絶版になり、また、出版社の方針が変わると、再版の需要があっても再版されないという、エネルギーを自分なりに懸命に注ぎ込んだものが、たちまち断裁されて姿を消していく、それを自分ではどうすることもできない、腹立たしい＋悲しい＋これってなんなの？　それらが入り混じった奇妙な感覚、フクザツな気分をまた味わわないためには、自分で出版社を立ち上げるしかない、そんなことから出版社を立ち上げたのである。

まず、出版したのが「**がんで死ぬのも悪くはないかも**」。この本は何の経験もない中で出版したので、いかにも見かけが粗末に見えてしまう。それでもなんの宣伝媒体もない中、多くのがん患者、家族の方に読んでいただき、やっとなんとか初版の千部を売り切ろうというところまで来た。

つぎは他社で絶版になっていたチボル・セケリの「**アコンカグア山頂の嵐**」の復刊。決して売れ行きは良くはないが、読んでいただいた読者からは「一気に読んだ。すばらしい」といったお褒めの言葉もいただいているので、根気よく決して絶版にしないでがんばりたい。

ただ、なんといっても、海山社の「売り」はカレル・チャペックだと思う。ひとつには、もともと、私の父、栗栖継がチェコ文学のパイオニア的存在だったのだが、父が他界してチェコ文学関係の書籍が大量に残された。私はもとよりチェコ語はまったくのちんぷんかんぷんで文学ともほど遠い世界にいた。よほど頭を悩ませたが、それでも思い切ってチェコ語を勉強してカレル・チャペックの作品を中心に海山社から出版してみようと思い立った。

ただそれよりも、私はチャペックには若い頃から強い関心があった。科学技術を意のままに操れる気になっている人の傲慢さを百年近くも前に指摘し、そんな知性、能力をはたして人は持っているのかをきびしく問いかけているチャペックは私にとってはとてつもなく大きな存在だった。そのチャペックが、どうも日本では、いや世界でも、必ずしも正しく評価されていないという思いが強かったからだろう。この思いは福島の原発事故以来いっそう強い。

無謀とも言える計画だったが、思いのほかチェコ語はすんなり頭に入ってきた。学生のときにロシア語をそれなりに勉強した経験が役に立ったのかもしれない。ちなみに、チェコ語とロシア語は同じスラブ語に属し、ボキャブラリーには相当の違いがあるものの文法はかなりに似ているからである。

まず、手始めに「**いたずら子犬ダー**

シェンカ」、そのつぎに、「**ひとつのポケットからでた話**」、「**もうひとつのポケットからでた話**」を訳して出した。この２冊の「ポケット」は、「訳者あとがき」でも書いたが、人それぞれの人生の断片を鋭く、しかもユーモアたっぷりに描いているのだが、読めば読むほどヘタな哲学書よりも深い意味が込められている。それでいて説教くささが感じられないのである。

つづいて、「**チャペック戯曲集Ⅰ ロボット / 虫の生活より**」を出すことができた。政治、経済、哲学、技術、あらゆるものが行きづまっているように感じられる今日、「ロボット」は90年以上前の作品であるにもかかわらず、きびしくわれわれに問いかけ、迫っているように私には感じられる。

まもなく、チャペックの「**園芸家の十二ヶ月**」を出版する。日本ではドイツ文学者の故小松太郎氏のドイツ語からの重訳「園芸家１２ヶ月」が古くから親しまれているが、あらたなチェコ語からの訳として私としてはベストを尽くしたつもりでいる。これら４冊のチャペック・シリーズは和田誠氏に装丁・挿絵をお引受けいただいた。大胆にも直接、装丁、挿絵をお願いしたところ、いともあっさりと「いいよ。おれチャペック好きなんだ」とおっしゃりお引き受けいただいたのである。おかげで、すてきなチャペック・シリーズとなり、和田氏には大変感謝している。

今、本はそれこそグーテンベルク以来の大変動期にあると私は思っている。ただ、紙への印刷から電子書籍という流れがはたしてどこまで行くのか、私にはわからない。従来の本が馬車のようになり、電子書籍が自動車並みに普及する、そんな事にはならないとは思うが、やはり相当のところまでは行くだろう。いずれにしても、私はこのような現象もポジティブに受け止めて、電子書籍も出して行きたいと思っている。

この流れは、単に電子書籍か、従来の紙の本かというよりも、だれもが自分の「ミニミニ出版社」から、自由に自分の著書、訳書などを世に問うことができる、そんな時代を切り開くものだと思っている。

自分としては、海山社は「山椒は小粒でもぴりりと辛い」、そのような「ミニミニ出版社」をさきがける存在でありたいと願い、年２冊というスローペースながら、今後も頑張ってしっかりした出版を続けたいと思っている。

（くりす　あかね／海山社代表）

＊

《海山社》
ホームページ　http://kaizansha.com/
ブログ http://ameblo.jp/capek-kurisu/

新刊ダイジェスト

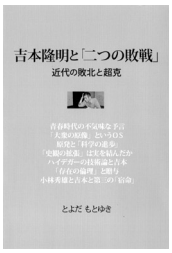
※価格は総額（税込）表示です。

『日本の心　ーアメリカ青年が見た明治の日本』●Ｃ・Ｌ・ブラウネル著／高成玲子原訳

20世紀初頭のアメリカで、全米公立図書館の日本関係書籍貸出数が小泉八雲の「神國日本」に次ぐ人気を博した日本見聞録が110年を経て本邦初訳された。日露戦争で日本へ関心が高まるアメリカ。お雇い外国人教師の米国青年がユーモラスに紹介する日本の庶民生活は、米国民の遠い日本への好奇心をかき立てたにちがいない。故高成玲子氏が発掘した原訳を、富山八雲会が受け継ぎ編集した。ブラウネルは明治時代中頃に来日、五年間滞在する。早稲田大学や北陸の尋常中学校で英語を教えその間自身が体験したり伝聞した様々なエピソードを詳細に記録した本書。「古くて魅力的な日出ずる国の精神」をもつ市井の人達が息づいている。

◆ 2100円・Ａ５判・358頁・**桂書房**・富山・2013/6刊・ISBN978-4-905345-41-1

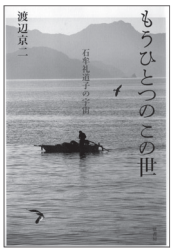
『吉本隆明と「二つの敗戦」　ー近代の敗北と超克』●とよだもとゆき著



労働争議の渦中にあった70年代、多少でも地に足をつけて進むことができたのは吉本氏の思想とその生活姿勢に負うところが多い、と著者は言う。また、谷中銀座や神社の祭りで偶然見かけた吉本氏の姿を感慨深げに回想している。「その思想を裏付けるような彼の実際の生活姿勢が倍音のように響いて、影響がより深められた」。しかし、80年代の『ハイ・イメージ論』のあたりから異和を感じるようになったようだ。吉本氏の、産業の高次化をめぐる価値論や贈与経済論に対して著者は独自の考えを展開している。そして福島第一原発事故後の吉本氏の原発論。それついて著者は、批判的であるが故に周到に、そして丁寧に、発言の背景を読み取ろうとしている。

◆ 1575円・四六判・183頁・**脈発行所**・沖縄・2013/6刊・ISBN978-4-9906614-6-5

『もうひとつのこの世　－石牟礼道子の宇宙』●渡辺京二著



『逝きし世の面影』（和辻哲郎文化賞）をはじめ、「近代化」の意味を問い続けてきた著者・渡辺京二は、他方で、話題の本『苦海浄土』を書いた石牟礼道子のアシスタントとして、彼女の生み出す作品の最も深い理解者、紹介者でもある。

本書は、戦後日本文学の最高傑作という『苦海浄土』をはじめとする石牟礼作品の文学的意義を探り、彼女がどのようにして自己形成されてきたかを述べる。すなわち、自然と渾然一体化した漁民や農民の生活を内側からとらえて彼らに乗り移り、その人自身となってあの世とこの世を行き来する石牟礼文学は、「近代的自我」など無視するというわが国の文学史上初めてのもので、枠に収まらない特異な性格をもつという。

◆2310円・四六判・225頁・**弦書房**・福岡・2013/6刊・ISBN978-4-86329-089-1

『田中正造と足尾鉱毒事件研究　ｖｏｌ．１６』●渡良瀬川研究会編著

没後100年になる田中正造の行動と思想を、自由民権運動への参加、改進党入党動機、地方改良運動、政治への発心の虚実の観点からの考察、埼玉大学における正造をテーマにした交流型授業と取水を渡良瀬川に頼っていた三栗谷用水の鉱毒対策の報告、没後100年を学ぶことの意義などを述べた、力のこもった9点の論考からなる特集号である。「真の文明は　山を荒らさず　川を荒らさず　村を破らず　人を殺さざるべし」と日記に記した正造の言葉が、今の状況を鋭く照射する。3.11の地震で鉱毒を含む堆積場が決壊し渡良瀬川に流入したという。足尾銅山鉱毒事件がまだ終わっていないことに戦慄させられる。

◆1575円・Ａ５判・192頁・**随想舎**・栃木・2013/4刊・ISBN978-4-88748-272-2

『夢の遺産　石炭・造船・防衛　－長崎県近代化遺産めぐり』●長崎近代化遺産研究会編著

長崎県旧高島町の端島（軍艦島）が初めて観光旅行のパンフに載ったのは、平成17年2月のことだった。廃墟を前面に出した一見妙なパンフは、産業遺産の魅力をうまくアピールしていた。今や軍艦島は、長崎観光の目玉となっている。　この本に取り上げられた産業遺産群の中でも、軍艦島には別格の存在感がある。そして産業遺産の魅力は、外観に加えて時代背景や携わった人々を知ることで、より強く感じられるようになる。軍艦島に魅力を感じて、長崎の産業遺産を目指す旅をされるのであれば、この本をお供にして、現地の方の声に耳を傾けられるとよいのではないだろうか。かつて小さな炭鉱があった町に、思わぬ魅力が潜んでいるかもしれない。

◆1890円・Ａ５判・207頁・**長崎新聞社**・長崎・2013/5刊・ISBN978-4-904561-66-9

地方小出版 流通センター

ジャンル別 新刊案内

2013年6月1日～30日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は
所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は総額（税込）表示です。

【雑誌】

◆**季刊　メタポゾン**　第９号　鈴木　康之編　Ａ５　296頁　２１００円　寿郎社　［北海道］　978-4-902269-62-8　13/06

◆**ｆａｕｒａ**　４０　ナチュラリー編　Ａ４　80頁　１０００円　ナチュラリー　［北海道］　978-4-503-19900-3　13/06

◆**あおもり草子**　Ｎｏ．２１６　佐藤　史隆編　Ａ４　48頁　６００円　企画集団ぷりずむ　［青森］　978-4-503-19885-3　13/06

◆**ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ**　４０２　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２８００円　地域環境ネット　［埼玉］　978-4-905457-34-3　13/06

◆**響き合う街で**　Ｎｏ．６５　やどかり出版編　Ｂ５　78頁　１２６０円　やどかり出版　［埼玉］　978-4-503-19892-1　13/05

◆**はっぴーママ東京ベイ・千葉版**　Ｎｏ．５３　市川　恵美子編　Ａ４　95頁　６００円　明光企画　［千葉］　978-4-503-19907-2　13/06

◆**子どもと読書**　４００号　親子読書地域文庫全国連絡会編　Ａ

売行良好書　期間：2013年6月16日～7月15日

［出荷センター扱い］※税込み価格

(1)『演じてみよう　つくってみよう　紙芝居』1365円・石風社　(2)『立身出世と下半身』2730円・洛北出版　(3)『北海道「古語」探訪』1785円・無明舎出版　(4)『謎の独立国家ソマリランド』2310円・本の雑誌社　(5)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社　(6)『設計者』2310円・クオン　(7)『もうひとつのこの世』2310円・弦書房　(8)『スウェーデン　森に遊び街を歩く』1575円・書肆侃侃房　(9)『続々　絵本講師の本棚から』1470円・「絵本で子育て」センター　(10)『ロシア民話　うさぎのいえ』1155円・カランダーシ　(11)『私たちの選んだ子どもの本　改訂新版』1050円・東京子ども図書館　(12)『井上馨　開明的ナショナリズム』2520円・弦書房　(13)『百歳がうたう百歳をうたう』500円・鉱脈社

［三省堂書店神保町本店４Ｆ―センター扱い図書］※税込み価格

(1)『東京かわら版　７月号』420円・東京かわら版　(2)『江戸城の石垣』1680円・歴史春秋社　(3)『立身出世と下半身』2730円・洛北出版　(4)『将門と忠常』1575円・崙書房　(5)『Ｄａｉｄｏ　Ｍｏｒｉｙａｍａ』3465円・赤々舎　(6)『北海道いい旅研究室１４　ｂｏｏｋ２』690円・海豹舎　(7)『北海道「古語」探訪』1785円・無明舎出版　(8)『千葉氏と妙見信仰』3360円・岩田書院　(9)『海路　１１号』1260円・海鳥社　(10)『謎の独立国家ソマリランド』2310円・本の雑誌社

［ジュンク堂書店池袋店地方出版社の本―センター扱い図書］※税込価格

(1)『高尾山・景信山・陣馬山登山詳細図　改訂第２版』800円・吉備人出版　(2)『ＴＨＥ　ＢＵＲＧＥＲ　ＭＡＰ　首都圏版』1300円・幹書房　(3)『図説　江戸城の石垣』1680円・歴史春秋社　(4)『日本産マルハナバチ図鑑』1890円・北海道大学出版会　(5)『考える人・鶴見俊輔』819円・弦書房　(6)『富士山　構成資産ガイドブック』972円・山梨日日新聞社　(7)『いきている長屋』2625円・大阪公立大学共同出版会　(8)『吉本隆明と「二つの敗戦」』1575円・脈発行所　(9)『居場所を探して』1680円・長崎新聞社　(10)『バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑』2730円・北海道大学出版会　(11)『原田正純追悼集　この道を―水俣から』2940円・熊本日日新聞社　(12)『立身出世と下半身』2730円・洛北出版

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

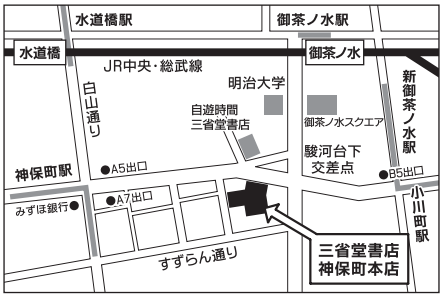
トピックス ―― ★★★

▼7月1日国立国会図書館法の改正法が施行され、オンライン資料の納本が義務づけられました。対象となるのは当面、無料かつDRM（デジタル著作権管理）のないオンライン資料。具体的にはネット上で無料公開されている年鑑、機関誌、事業報告書、学術論文、等々。かつ、そのうち特定のコードが付与されているか特定のフォーマットで作成されたものに限る、とのこと。この当センター情報誌『アクセス』は刊行後約50日で一部をWEB版（PDFファイル）として公開しているのですが、そのWEB版はこの「オンライン資料」に該当することになります。しかし、紙版と同一版面で変更を加えていない場合は、除外申請をすれば納本対象から外されるとのことでしたので、先日、国会図書館の該当部署に除外申請をしたところです。

※前号のこの欄で〈小野啓写真集『ＮＥＷ ＴＥＸＴ』作って届けるためのプロジェクト〉について「…4月19日現在194件…」との記載がありましたが、正確には「6月19日現在」の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。因みに7月19日現在では予約件数は過半数を超え265件となっているようです。印刷開始まであと235人とのこと。
http://akaaka.com/newtext-project/diary/

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。
★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

三省堂書店 BOOKS SANSEIDO　営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。